

編集後記

本号では、昨年の第9回横幹コンファレンスで企画していただいた、品質工学および品質・信頼性・安全性に関連するセッションを中心に、「品質・信頼性・安全性確保に関わる横幹的体系」と題した特集記事を掲載することができた。6名の方々に解説4件・論説2件を新たに書き下ろしていただき、内容的にも大変重厚なものとなった。特集のエディターを快くお引き受けいただいた椿広計先生、また著者の方々に、この場を借りて感謝を申し上げる。

本特集の中で、鈴木和幸氏は、「生じたことへの批判は誰でも出来る。大事なことは、取り返しのつかない重大なトラブルをいかに未然防止するかである。」と述べ、安全が確認できなければ次に進むことができない未然防止体系を提案いただいた。田中健次氏らは、医療現場でのインシデント情報を機械学習を併用してリスク対応支援する取り組みを紹介いただいた。高橋武則氏には、超因子と超構造関数を用いて数理計画法で最適化する、超設計のパラダイムとメソドロジーを俯瞰する解説をしていただいた。立林和夫氏には、田口玄一が開発した品質工学(タグチメソッド)における中心的手法であるロバスト設計とMTシステムについて解説いただいた。椿広計氏には、田口玄一の統計学に対する貢献を、因子分類、S/N比最適化、割引係数法、推論、確率対応法の各論点で記述いただいた。大久保豪人氏には、高次元データを対象としたMTシステムに関する総合的な報告していただいた。どれも大変有意義な報告となった。

また、前号から引き続き、会員学会のイベント

報告として、日本情報経営学会、日本MOT学会、日本生体医工学会の各学会から全国大会や総会などの報告をいただいた。各学会での最新の研究動向を垣間見ることが出来る報告であり、ぜひ学会の垣根を越えて、知の共有のきっかけにしていただければ幸いである。

そして、本号では原著論文1件が掲載されている。蘆澤雄亮、櫻木新両氏による「コトづくり」と「ものづくり」の再定義、と題した論文である。横幹連合では、コトづくり至宝事業を開始しており、コトづくりの意味を再定義するという誠に時宜を得た論文となっている。ぜひ、ご一読をお願いしたい。また、今後も多くの方からの「横幹」への原著論文投稿をお待ちしている。

本編集後記は、ドイツ出張の途上で執筆した。こちらでは、街の風景が一変する様子が見て取れ、最近まで街角にあったシェアサイクルが姿を消し、eスクーターと呼ばれる電動のキックボードをあちこちで見えるようになった。電気自動車の導入や再生可能エネルギーの普及、電力売買の自由化、気候変動への対応などに伴い、都市内での通勤通学の足として、eスクーターの環境特性が評価されてのことと聞いた。安全性の懸念などから、多くの議論が交わされたようであるが、新しいテクノロジーが一気に普及する様子は、眼を見張るものである。ドイツ社会における重厚な品質管理、システム技術、ものづくり、コトづくりなどが背景にあってこそその普及とも思われる。これからも多くの知見を海外から学びながら、日本独自の方向性を見出していければと願う。

会誌編集委員長 倉橋節也

【特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）】

□ 2019 年度役員

会 長	北川 源四郎 (東京大学)	
副会長	椿 広計 (統計数理研究所)	本多 敏 (慶應義塾大学)
理 事	板倉 宏昭 (産業技術大学院大学)	倉橋 節也 (筑波大学)
	高寺 政行 (信州大学)	高橋 泰城 (北海道大学)
	田村 義保 (統計数理研究所)	椿 美智子 (電気通信大学)
	長谷川 恭子 (立命館大学)	木野 泰伸 (筑波大学)
	木村 忠正 (電気通信大学)	木村 裕一 (近畿大学)
	葛岡 英明 (東京大学)	櫻井 成一郎 (明治学院大学)
	高木 真人 (日本工学会)	田名部 元成 (横浜国立大学)
	林 勲 (関西大学)	深尾 隆則 (立命館大学)
	船橋 誠壽 (国際環境研究協会)	三上 喜貴 (長岡技術科学大学)
	村上 存 (東京大学)	横井 郁子 (東邦大学)
監 事	出口 光一郎 (東北大学)	六川 修一 (東京大学)

□ 2019 年度会誌編集委員会

委員長	倉橋 節也 (筑波大学)	
副委員長	櫻井 成一郎 (明治学院大学)	
委 員	青柳 秀紀 (筑波大学)	穴太 克則 (芝浦工業大学)
	大塚 敏之 (京都大学)	金子 勝一 (山梨学院大学)
	小平 和一郎 (アーネスト育成財団)	玉置 久 (神戸大学)
	椿 広計 (統計数理研究所)	椿 美智子 (電気通信大学)
	出口 光一郎 (東北大学)	藤井 享 ((株)日立製作所)
	水野 毅 (埼玉大学)	三宅 美博 (東京工業大学)
	横山 清子 (名古屋市立大学)	

■横幹技術協議会の主な活動実績 『横幹技術フォーラム』

横幹連合との共催で定期的開催している「横幹技術フォーラム」では、複合的視点を必要とする企業課題への技術情報を提供しております。

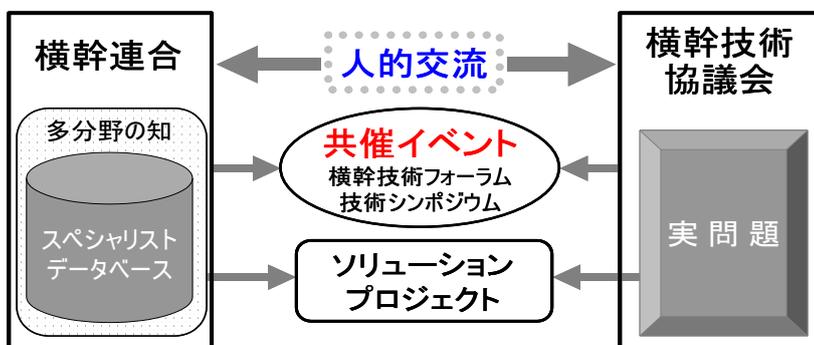
＜過去のフォーラム実績＞

- 第34回 東日本大震災からの復興支援現場における支援活動
～次世代に向けた日本の街づくりとして我々は何ができるのか～
- 第35回 エネルギーマネジメントの新しい局面～社会システムの構築段階を迎えて～
- 第36回 アート・デザイン・テクノロジー～近くて遠いその関係～
- 第37回 「未来学」の過去・現在・未来
- 第38回 サービス学の成立 ～サービス科学・サービス工学の発展を受けて～
- 第39回 社会システム論で社会を読み解く
- 第40回 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション
- 第41回 社会的課題解決のためのイノベーション～社会システムとしての街づくり～
- 第42回 数学と産業の協働、データサイエンティストの育成
～イノベーションの創出と促進に向けた先進的取組み～
- 第43回 経営高度化としての統合リスクマネジメント経営の考察
- 第44回 ロボット活用社会の新潮流
- 第45回 システムデザイン力を展望する
- 第46回 第6次産業への取り組み～複数システムの連携による価値構築～
- 第47回 4次産業革命に向けたサービス科学の役割とビジネス応用に向けた課題
- 第48回 人工知能によるシステム構想力・統合力の強化
～ものづくりプラス企業の実現に向かって～
- 第49回 ビジネスイノベーションが先導する第4次産業革命（IoT/インダストリアル4.0）の実現に向けた産・学・官の役割と課題とは
- 第50回 未来洞察（Foresight）活動の取り組みの現状とその活用
－科学技術融合時代の先取りを目指して－
- 第51回 ヘルスケア・サイエンスの取り組みと現状
－医療に頼らない健康管理のためのヘルスケア－
- 第52回 IoT・ビッグデータ・AI時代の企業間連携とプラットフォーム
－センシングデータ利活用の可能性と課題－
- 第53回 Society 5.0時代のヘルスケア（その1）
- 第54回 Society 5.0時代のヘルスケア（その2）
- 第55回 Society 5.0が実現するデータ駆動型まちづくり－展望と課題－

※過去のフォーラムプログラムはHP(<https://www.trasti.jp/about.html#forum>)をご覧ください

■企業の課題解決支援（プロジェクト活動）

企業が抱える実問題に対し、他分野の専門家が共同してプロジェクトを組みソリューションを追求するもので、さまざまな要素が絡み合う複雑な課題へアプローチする、新たな産学連携の仕組みとして注目されています。横幹技術協議会では、中核会員企業に初期のフィジビリティスタディ段階のサービスを提供しています。



統合知による産業力強化を推進



横断型基幹科学技術推進協議会

会長 桑原 洋

マクセルホールディングス(株)名誉相談役
元 内閣府総合科学技術会議議員

横断型基幹科学技術推進協議会（略称：横幹技術協議会）は、企業を会員として横幹科学技術の推進活動を行っています。

「学」を中心とする横幹連合と、「産」を主体とする横幹技術協議会は互いに緊密に連携しながら、横幹科学技術を推進し、産業活動に生かすためのさまざまな活動を行っています。横幹連合と横幹技術協議会は、車の両輪として、横幹科学技術の学としての深化と社会への活用に取り組んでいます。

（設立：2004年5月）

■参加会員（2019年10月現在）

- 【中核会員】
株式会社 日立製作所
- 【一般会員】
三菱重工業 株式会社

横断型基幹科学技術推進協議会

Transdisciplinary Science and Technology Initiative

TEL&FAX:03-6675-4076 URL: <https://www.trasti.jp/>